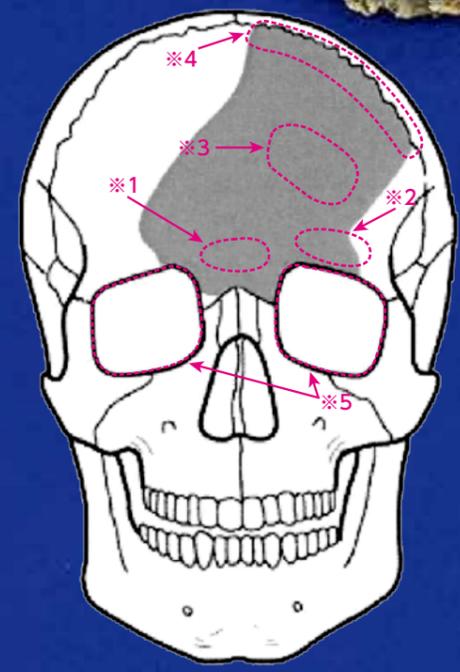


県内最古の貝塚人

空白の七千年をつなぐ

旧石器時代と貝塚時代をつなぐ貴重な発見



出土人骨の特徴

- 【部位】前頭骨
- 【性別】女性と推定
- ▶根拠：眉間が平坦で、眉弓がなだらか。前頭結節がやや発達している。
- 【年齢】16～40歳
- ▶根拠：冠状縫合の縫合線が一部明瞭に残存する。
- 【特徴】沖縄の先史時代人の典型的な特徴。
- ▶根拠：眼窩が四角い。

うるま市教育委員会では、平成26～28年度にかけてうるま市の藪地島にある藪地洞穴遺跡の発掘調査を行ったところ、洞穴奥部の約1万年～9千年前の地層から人の頭の骨が出土しました。

この人骨は、貝塚時代（縄文時代～弥生平安並行時代）の人骨としては沖縄最古のものであり、港川人骨をはじめとする旧石器人と、それ以後の貝塚人との間をつなぐ貴重な発見といえます。

藪地島で新発見

藪地洞穴遺跡は、うるま市藪地島にある洞穴遺跡で、沖縄最古の貝塚とされています。



藪地洞穴遺跡入口

発掘調査の様子

今回の藪地洞穴遺跡から出てきた人骨はこれまで人骨の出土の無い「空白の時代」に光を当てる重大な発見となります。

1万年～9千年前
新発見
 ・藪地島で頭部の人骨
 ※波状文土器や押し文土器も出土（藪地洞穴遺跡）



旧石器時代
 貝塚時代（縄文時代）

港川人と貝塚人は同じ系統？ 沖縄の歴史を読み解く



2万3千年～1万4千年前

- ・港川人の人骨（港川フィッシャー遺跡）
- ・石英製石器と人骨（サキタリ洞遺跡）

人骨が発見されない「空白の時代」

7千年前

- ・貝塚人の人骨（大堂原貝塚）

この洞穴遺跡からはこれまで、ヤブチ式土器（7千年前）や、押し文土器・波状文土器（1万～9千年前）が見つかっていました。

今回発見された2点の頭の骨は、洞穴の奥で発見され、互いに接合し前頭骨の一部であることが確認されました。この人骨は貝塚人の形態的な特徴が表れる左右の眼窩が部分的に残っており、当時の貝塚人を知ることができる貴重な資料となります。

人骨は、約1万年前～9千年前の地層から出土しています。埋葬されたものかどうかはまだわかりません。

「空白の時代」に光

これまで沖縄では、本島南部の港川フィッシャー遺跡で発見された港川人や、サキタリ洞遺跡で約2万3千～1万4千年前の旧石器時代の人骨が発見されていました。しかし、それ以降の人骨はすべて約7千年前以降の貝塚時代のもので、旧石器人

と貝塚人との間には人骨が発見されていない「空白の時代」が存在し、2つの人類の関係は全くわかっていませんでした。

今回発見された藪地洞穴遺跡の約1万年～9千年前の人骨は、これまで「空白の時代」とされた旧石器時代と貝塚時代の人をつなぐ研究する上で大変貴重な資料となります。

藪地洞穴遺跡には、今後さらに多くの人骨が発見できる可能性があります。これらの人骨は私たちにつながる祖先なのか、そしてどこから来たのかなど、多くのナゾを解くカギが藪地島に眠っています。

市教育委員会では、旧石器人と貝塚人の関係性について、見つかった人骨の調査研究を進めていくとともに、合わせて発見された土器や動物骨等の詳しい研究を行っていきます。

【問合せ先】
 教育委員会 文化財課
 ☎9233-7182